

令和 8 年 7 月 8 日  
福島県農林水産部農業振興課

令和 8 年 6 月 23 日公表の気象庁の 3 か月予報では、7 月～8 月の平均気温は平年並みか高い、9 月は平年並みの予報となっております。降水量は 7 月は平年並み、8 月は多い、9 月は日本海側で平年並み、太平洋側で多い予報となっております。

今後の気象情報に留意するとともに、急激な気象の変化により日照不足や低温、長雨となった場合にも対応できるよう、備えておくことが必要です。

なお、農作物の技術対策については、以下の事項に留意してください。

### 【共通事項】

#### (1) 適期防除の徹底

今後の天候の推移に十分に注意し、ほ場の観察を定期的に行い、適期防除に努める。

#### (2) 排水対策の徹底

排水溝（明きよ）の再整備を行い、排水対策を徹底する。

## 1 水 稲

### (1) 低温時の水管理

幼穂形成始期から減数分裂期（出穂前15～8日）は、低温に弱い時期となっている。この時期に平均気温が20℃以下又は最低気温が17℃以下に遭遇すると花粉が障害を受け、不稔が発生するおそれがある。低温時には深水管理を行い、幼穂を低温から保護する。水深の目安としては幼穂形成期（出穂前25～20日）で10cm以上、減数分裂期（出穂前15～8日）で15～20cm以上の深水管理を行うことが必要である。事前に水尻や畦畔からの漏水がないことを確認する。

### (2) 病害虫対策

#### ア いもち病

日照不足・多雨条件下では、いもち病が多発し被害が拡大するおそれがある。発生予察情報等を活用し、適切な防除を実施する。

#### イ カメムシ類

減数分裂期が低温・寡照に経過すると割れ粃が発生しやすくなり、カメムシ類による被害粒発生の原因となる。出穂14日前までの畦畔の草刈りと薬剤による適期防除を必ず実施し、カメムシ類の密度を下げ被害発生を予防して、高品質米を生産する。

### (3) 出穂後の水管理

出穂後、少なくとも30日間は落水せず間断かんがいとし、根の活力を維持することで登熟の向上を図る。

## 2 大 豆

### (1) 排水対策

長雨により湿害が発生しやすくなる。明きよ、暗きよを確認し、滞水を速やかに排水する。

### 3 野菜

#### (1) 草勢維持

日照不足や低温条件では、トマトの着色不良、きゅうり・さやいんげん等の肥大遅延が発生しやすく、着果負担からの草勢低下となりやすいため、不良果を早く摘果して草勢維持を図る。

#### (2) 湿害対策

長雨による多湿条件では、根が地表近くに張りやすくなるため、排水対策等を徹底し、湿害の防止に努める。

#### (3) 病虫害防除

多湿により病害が発生しやすくなるため、防除を徹底し被害防止を図る。

#### (4) 施設栽培管理の留意点

施設栽培では、日照不足による軟弱徒長を防止するため、施肥量を調整するとともに、曇雨天後の強光による葉焼けを防止するため、光量に応じてきめ細かく遮光資材を開閉する。

### 4 果樹

#### (1) 日照不足による影響

日照不足の条件では、ももの肥大不良・果肉軟化・着色不良、なしの肥大不良・果肉障害（蜜入り症）、りんごの肥大不良等が発生しやすくなる。また、7月は果樹の花芽分化期に当たるため、着果管理や着色管理等を適切に実施する必要がある。

#### (2) 着果管理

果実肥大や花芽分化の促進を図るため、修正摘果で小玉果等を摘除し、着果数を調整する必要がある。

#### (3) 夏期せん定

曇天が続く場合は、夏期せん定（徒長枝のせん除）により樹冠内部の日当たりを改善し、日照不足の影響を軽減する必要がある。

#### (4) 排水対策

園地内に滞水がみられる場合には、明きよ、暗きよを確認し、滞水を速やかに排水する。

#### (5) 病虫害防除

日照不足、長雨などの条件下では、病虫害（特に病害）の発生が多くなるおそれがあるため、発生予察情報等を活用し適切に防除を実施するとともに、定期防除の散布間隔が開かないよう注意する。また、感染源となる病斑や発病葉、発病果は速やかに適切に処分する。

### 5 花き

#### (1) 排水と草勢回復対策

低温・日照不足・長雨対策として、排水対策を徹底するとともに、必要に応じて葉面散布等による追肥を行い、草勢回復を図る。

#### (2) 病虫害防除

低温・多湿条件下では灰色かび病、きく白さび病等の発生が助長されるので、適切に防除する。また、感染源となる病葉や病株を早めに処分するよう心がける。

#### (3) 施設栽培管理の留意点

施設栽培では、多湿にならないよう、施設内の空気循環や換気を行う。また、曇雨天後の強光による葉焼けを防止するため、光量に応じてきめ細かく遮光資材を開閉する。

#### (4) 施設栽培における施肥管理等

施設栽培では、日照不足による軟弱徒長を防止するため、施肥量を調整する。